

Re ちゃりクル

代表者 鬼塚智也（工学B 4年）
構成員 渡辺駿（工学B 4年） 廣安浩之（工学B 3年） 辛島勸（工学B 4年）
栢木祐典（工学B 3年） 角一正樹（工学B 3年）
佐藤宗史（工学B 3） 田中直（工学B 3年）
中村哲（工学B 3年） 原田直樹（工学B 3年）
福嶋彬雅（工学B 3年）

1. プロジェクト実施について

私たちは2009年秋から、不要な自転車の再利用について「Re ちゃりクル」の活動を始め、2010年の春からおもプロの支援を受けプロジェクトの本格的な活動を始めました。また、プロジェクト実施にあたって宇部市の自転車商組合や宇部警察署より個人的に協力していただきました。

2. プロジェクトの目的

本プロジェクトは不要になった自転車を学内や学内に不法投棄させないこと、またリサイクルされた自転車の利用を通して、環境問題への意識を高めてもらうことを目的としています。

3. プロジェクトの内容

プロジェクトの内容は、山口大学には大量の放置自転車という問題が存在しています。そこで卒業などで不要になった自転車を手離す前に回収し、その自転車を新たに自転車が必要となる新入生や留学生に提供することで、放置自転車をなくすこと目指しています。

4. 結果・進行状況

私たちの活動は、2~4月に主要な活動の期間となるため、それまでの期間は週に1度の定例会議でプロジェクト全体の見直し（譲渡方法、回収の呼び掛け、提供方法等）と改善及び周辺地域における協力のお願いや活動内容の広報を行なっていました。プロジェクト申請時には、具体的な方法が未定だった自転車防犯登録の解除及び再登録の問題では自転車商組合の服部さんの助言を頂き、協力して頂くことになりこの問題は解決しました。

卒業生により回収した自転車の数は、現時点（3月28日）で13台となっており、パンク等を修理した自転車の数は10台となっています。

また、修理した自転車の提供に関してですが、まだ新年度になっていないので実施していません。



定例会の様子



自転車修理の様子

5. 環境問題の取り組みとして

山口朝日放送と朝日新聞の共同企画の環境問題の特集において、本プロジェクトが9月13日に常盤キャンパスで取材を受けました。自分たちの取り組みが取材を受けたことは地域の方々に広く知ってもらいたい機会だと思います。実際にTVで放送された翌日には常盤キャンパスがある宇部市の市民の方から激励のメールを頂きました。TVの放送は9月28日、新聞の記事は同日の朝日新聞の地域欄に掲載されました。

6. まとめと今後の予定

現段階での実施状況は、上記で述べたとおりです。プロジェクトの計画予定における自転車の回収から修理までを行っており、4月になってから自転車の貸し出しを行なう予定です。

このプロジェクトの4月に行なう自転車の貸し出しにおいて、借り手が見つらずに自転車が余る可能性があります。そこで、計画にはありませんでしたが余った自転車をフリーマーケット等に出品することを考えています。これはReチャリクルの構成員で参加した地域での活動において知り合いになった市民の方に、アイデアを頂いたものです。このアイデアにより「Reチャリクル」の活動は、おもプロによる支援がなくなっても活動資金をフリーマーケットの収入により得られることになると考えています。

私たちはこのプロジェクトの一番重要なことは継続性と考えています。プロジェクトが継続すれば、認知度も上がり自転車の回収率も増えると考えられるからです。そこで上記のアイデアはプロジェクトが継続できるシステムを確立できるものだと思います。よって今後はそれらのことも考えながら、来年度のおもプロへの申請の有無に拘らず、このプロジェクトを継続できるようにしていきたいと考えます。